

第2期高島市まちづくり推進会議で 作成した将来像

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
主任研究員 木村道徳

推進会議における将来像作成の位置づけ

将来像の実現に必要な
【 事業計画 】

	だれが	どこで	なにを	どのように
課題				
原因				
解決方策				

将来像への
貢献度を評価



【 将来の高島市 】
目指す将来像

根拠に基づく

- ・現状（人、モノ、サービス、インフラ、制度・仕組み、心、つながり、お金、エネルギー、環境負荷など）
- ・課題を共有



【 現在の高島市 】

計算機 (PC)



- ・第2次高島市総合計画など
- ・第1期推進会議
- ・市民活動、ヒアリング
- ・資源の制約、気候変動の影響
- ・技術や対策のリストなど

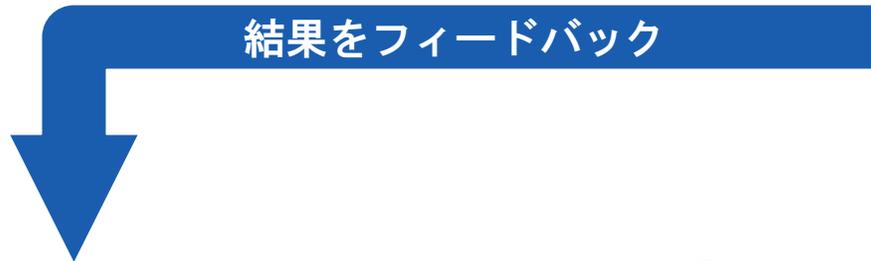
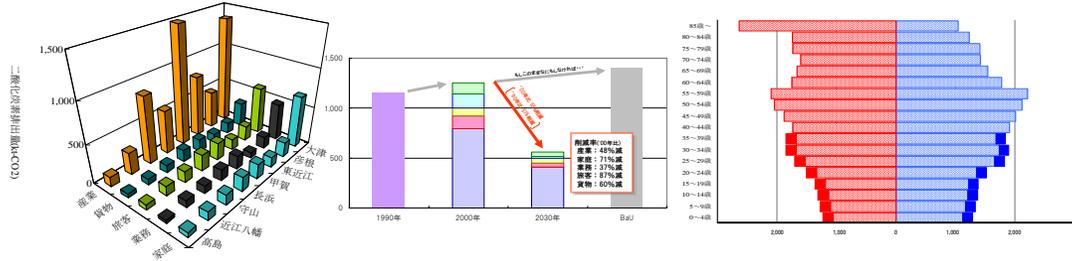
(高島市まちづくり推進会議)

市民が望む、豊かさを感じられる

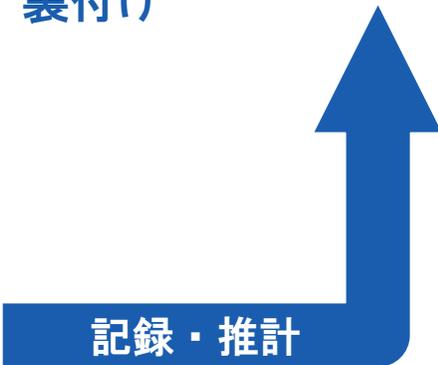
働き方、余暇の過ごし方、残したいもの、お金の使い所など
に関する意見（現状にとらわれ過ぎない発想で）

市民参加型の 将来像作成の流れ①

市内の家庭の農林水産品に対する消費支出が50%増加して第1次産業の県内移出額が22億円、県外移出額が150億円に増加して県内他地域からの移入も33億円に増加するが県外からの移入額は4千万円まで減少して自給目的で農作業をはじめめる人が2.8%ぐらいいたりして……



数理モデルによって、
将来の経済、環境の状態を定量的に
裏付け



地域の将来を思い描く人たち

第2回(8/26) 「高島市の人口予測と将来像」

- ① 高島市の現状と人口予測・産業構造を知る
- ② グループワークで将来の暮らしや仕事を予測

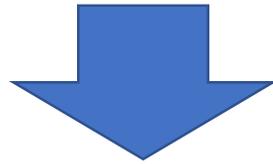


第3回(10/4) 「行政と市民活動の把握と整理」

- ① 第2回の将来予測をデータで確認
- ② 第1期まちづくり推進会議の検討結果の共有
- ③ 市総合計画、市民活動に関する情報提供
- ④ グループワークで市民の活動と市の事業を整理

第4回(12/2) 「高島市の将来社会像を考える」

- ① 事例：「自分たちのまちは自分たちで創る」
朝来市与布土地域自治協議会のまちづくり
- ② グループワークでこれまでの情報提供と検討した内容から、高島市の将来社会像をより具体化



第5回(2/24) 「将来社会に向けて必要な事業を考える」

- ① 第4回の将来社会像をデータで確認
- ② グループワークで将来社会に向けて取り組むべき事業を出し合う
- ③ 事業テーマでグループづくり

県民・市民が望む将来社会シナリオづくり

第2期高島市まちづくり推進会議



左) 研究者による、定量的社会像をまちづくりに活用する方法の説明と定量的なデータによる高島市の社会経済状況の紹介。

第2回高島市まちづくり推進会議本会議2017年8月26日

右) 推進会議ワークショップでの、望む将来社会像を表す個別ストーリーラインと現在取り組まれている市民活動・行政事業との関連性の整理。



第4回高島市まちづくり推進会議本会議2018年2月25日

市民が望む将来社会のストーリーラインの抽出

A班テーマ どんな働き方をしたいか？							
	A.農業	A.フレキシブル	A.高齢者	A.子育て	A.教育	A.その他	
こんな働き方をしたい	<ul style="list-style-type: none"> 林業 農業 半分で 農業モデル生活できる収入が得られる 農業で少しだけ働ける仕組み 	<ul style="list-style-type: none"> 半分都会で 年単位 月単位 NPOと本業 例えば週休 3日などで 1日は長時間もあり 公務員兼業 OK 副業がメイン 県外に出てよい → 職場のみ 				<ul style="list-style-type: none"> 教育産業が 栄える 高校を進学校にする(京大・東大) ←人が来る 高島の魅力を 生かした 教育機関 	
そのために必要なこと	<ul style="list-style-type: none"> 畑を借りられる ような制度を 整える 田の畑を 借りたい人と 貸したい人の マッチング 地域資源を活用した新しい 農業 高付加価値の 作物 農業でちょっと 働ける仕組み 大学生 農業インターン 受け入れ 	<ul style="list-style-type: none"> 勤務時間・ 日を自分で コントロール 在宅勤務 近い職場 かくれ人材 活用 働く場所が たくさん あった方が よい 	<ul style="list-style-type: none"> ちょっとした サービスを 提供 需給マッチ 人材バンク 長時間勤務 があったり 前のような 地域で 	<ul style="list-style-type: none"> 年代ごとの ボランティア バンク 高齢者がい つまでも働 ける場所 生活できる シルバー人 材的な 有償ボラン ティア 	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援のために いろんなタイプの同居 育児出産の支援 次男・三男を高島市 に(次女・三女) 地域社会で子育て 	<ul style="list-style-type: none"> 高専をつくる 宿泊施設 空き家・廃校利用 楽しく学ぶ 自然体験 幼児教育 廃校利用 	
行政の施策	<ul style="list-style-type: none"> 1-1-2農業の担い手を 育成し農地の維持に 努めます 1-2-2自然の恵みの 魅力をさらに高めます 5-1-1高島の魅力が 活かせる 土地利用を 推進します 1-2-1地場産業の 魅力を さらに高めます 1-2-3「発酵」を活かした オリジナル ブランドを 育成します 1-3-1豊かな自然や 恵みを活か した観光を 推進します 	<ul style="list-style-type: none"> 4-1-4水」を大切に する生活 環境を 保全・継承 します 1-1-2林業・水産業・畜産業 を 育成します 1-3-2高島の 魅力を 国内・海外に 発信 します 	<ul style="list-style-type: none"> 5-2-2基幹道路や生活 主要道路を整備・維持 します 5-2-1公共交通網の 利便 性を向上 図ります 3-1-4障がいへの 理解 を深め 暮らしを 支える 環境を整え ます 6-1-2仕事に こそが ぞし を持った 人材を 育成 します 6-2-2新たな 財源の 確保と 公平 な負担を 推進 します 	<ul style="list-style-type: none"> 3-1-3生きがいを持 った 高齢者が 過ごせる 環境を整え ます 3-2-3保健や福祉と 連携した 高福祉 サービス を 提供 します 3-1-2生活習慣 の 改善や 健康 チェックの 機会を 提供 します 	<ul style="list-style-type: none"> 5-1-2種もみが 快適に 暮らせる 機能整備を 推進 します 2-1-3家庭の 姿に 寄り添う 子育て 支援を 行います 4-2-3地域ぐるみで 安心 が 実感できる 体制を整え ます 3-2-1支援が 必要に なった 時に 相談 できる 体制を整え ます 6-2-3新たな 枠組みによる 行政 サービスの 維持を 図ります 	<ul style="list-style-type: none"> 1-2-1地場産業の 魅力 を さらに 高めます 3-1-1スポーツに よる 健康づくりを 推進 します 6-2-1行政改革を さらに 推進 します 2-2-3地域全体で 青少年を 育む 体制を整え ます 3-1-4安全・安心で 快適な 学校 教育 環境を整え ます 2-2-2地域の 魅力が 輝く 小学校・中 学校 教育を 推進 します 	<ul style="list-style-type: none"> 4-2-2ごみの 減量を さらに 推進 します 4-2-1災害に 強い 体制を整え ます 4-2-2高島らし さのある 住環境 を 守ります

高島市の現状と人口予測や、外部環境の変化（気候変動など）の情報を前提条件として、テーマ別に、望む将来社会の要素とその実現に必要なこと、現在取り組まれている行政事業や市民活動を抽出し整理する。

4テーマで議論

- A) どんな働き方をしたいか。
- B) どんなふうにお金を過ごしたいか？
- C) 高島で残したいものは何か？
- D) 何にお金を使いたいのか？

B班テーマ オフをどうしたいか？				
B.食生活	B.農業	B.市民活動	B.子ども	B.教育
<ul style="list-style-type: none"> 健康志向の 食生活 食生活の 改善 食生活の 改善 食生活の 改善 	<ul style="list-style-type: none"> 農業体験 農業体験 農業体験 農業体験 	<ul style="list-style-type: none"> 市民活動 市民活動 市民活動 市民活動 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども 子ども 子ども 子ども 	<ul style="list-style-type: none"> 教育 教育 教育 教育

D班テーマ 朝にお金を使いたい？										
D.自然環境	D.高齢者	D.健康	D.子ども	D.青少年	D.女性	D.交流	D.産業	D.防災	D.全体	D.その他
<ul style="list-style-type: none"> 自然環境 自然環境 自然環境 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者 高齢者 高齢者 	<ul style="list-style-type: none"> 健康 健康 健康 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども 子ども 子ども 	<ul style="list-style-type: none"> 青少年 青少年 青少年 	<ul style="list-style-type: none"> 女性 女性 女性 	<ul style="list-style-type: none"> 交流 交流 交流 	<ul style="list-style-type: none"> 産業 産業 産業 	<ul style="list-style-type: none"> 防災 防災 防災 	<ul style="list-style-type: none"> 全体 全体 全体 	<ul style="list-style-type: none"> その他 その他 その他

C班テーマ 高島市で残したいものは何？						
C.祭り	C.山	C.景観	C.川・湖	C.文化	C.地産産物	C.その他
<ul style="list-style-type: none"> 祭り 祭り 祭り 	<ul style="list-style-type: none"> 山 山 山 	<ul style="list-style-type: none"> 景観 景観 景観 	<ul style="list-style-type: none"> 川・湖 川・湖 川・湖 	<ul style="list-style-type: none"> 文化 文化 文化 	<ul style="list-style-type: none"> 地産産物 地産産物 地産産物 	<ul style="list-style-type: none"> その他 その他 その他

2040年高島市将来像



「高島市まちづくり推進会議」では、地域が本来持っている地域資源（自然、人、伝統文化、つながり）を最大限活かして、豊かさを実感できる社会を目指す。

- 豊かな森林資源と共に歩む林業を通じて供給される木材は、地場産業にて活用され地域の雇用を多く生み出し、整備利用された美しい自然景観を目当てにピワイチやトレイルなどを目的に多くの観光客が訪れ、地元産野菜や琵琶湖や河川の湖魚を使った伝統料理が人気を博している。
- 地域で受け継がれている生活の知恵や地場産業の技、伝統や文化、豊かな生物多様性について、地域の人々が相互に学びあい知識を深め、学校教育の現場で子供たちに教師となって郷土教育を実践することで魅力を伝え、高島市に住むことに誇りを持ち地域コミュニティを支える人材を育成する。
- 集落の人口は減少したものの、地域に残った若者や移住者が地域に溶け込み、地域サロンや集落行事、祭りなどが盛んに行われており、高齢者も市民活動によって提供されている移動支援を受けて活動に参加し、市民一人一人の安全や健康について支えあうコミュニティが形成されている。
- 高島市内では、地域資源を活用した多様な働き方が広がっており、休耕地を活用した農業や、そこから供給される食材を活用したレストランや高齢者向け配食サービス、インターネットを活用した地場産品の販売、自然や歴史文化を活かした観光ガイドなどを組み合わせるフレキシブルに働き、子育てや介護などを地域コミュニティの支援を受けて無理なく行い、空いた時間で趣味や地域活動を行いつつ、豊かな自然の中でのびのびとした生活をおくっている。

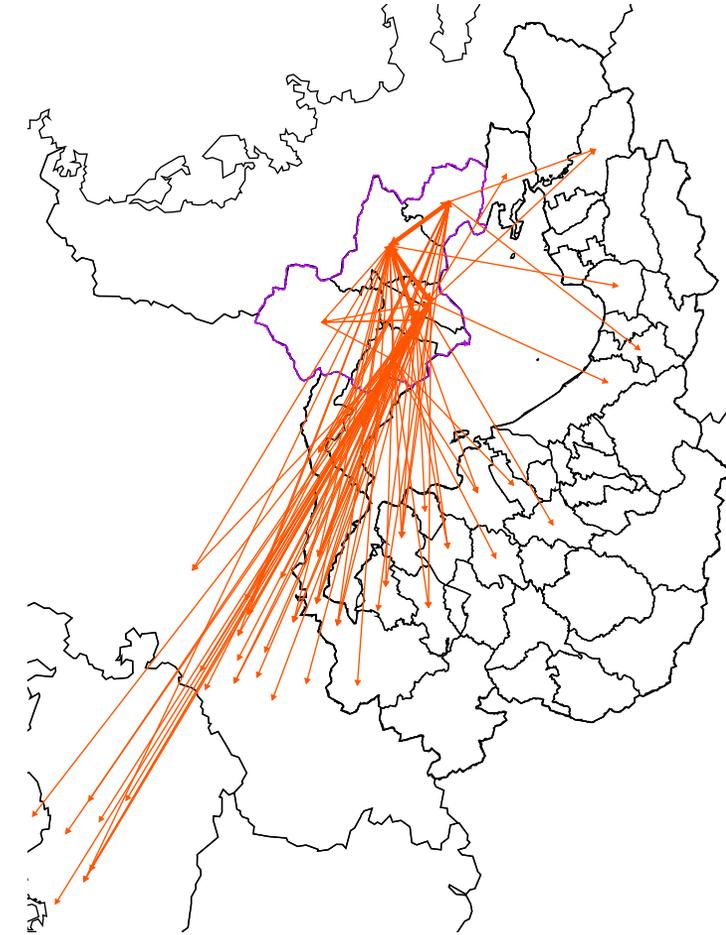
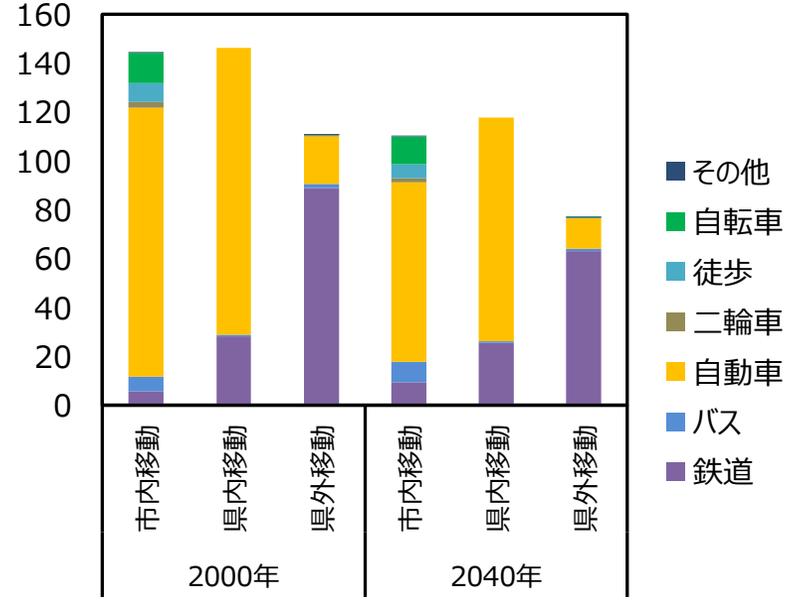
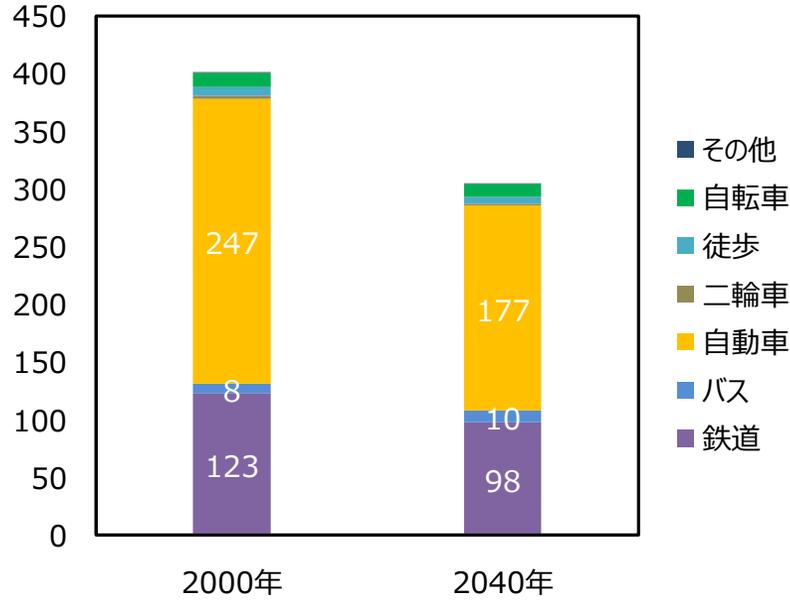
- 😊 地域資源を活かす・守る・再生する
- 😊 多様な働き方ができる
- 😊 地域で支え合う
- 😊 地域で育ち・学び・働く
- 😊 高島の伝統文化を継承する

例えば市民が望む2040年の高島の将来の交通

- 高齢者輸送タクシーサービスがある
- 友人や観光客など市外の人が高島にくる機会が多いので、電車の本数が増えており、道路も整備されている
- 歩くことを重視し、歩いて見えてくるものや（電車を）待つ時間を人と交流したりして楽しむ（歩くので、健康増進にもつながる）
- 電気バス、電気ステーションもある
- 土砂災害のない道が基本であり、国道が拡張されている
- コミュニティバスに〇回乗ったら地元商店の買物〇割引など、地元を活性化させる仕組みがある（ふるさと納税の財源で補てん）
- 湖西線が便利になり、道も整備され、「高島来てよ」が言いやすい
- 都会で稼ぎ高島で生活！

例えば2040年の高島の交通の状況を定量的に評価する

旅客輸送量 (百万人・キロ)



就業者のうち、市内で働く人の割合
85%→90%

具体的取組

- 旅客輸送量が24%減少
- 市内での自動車による移動が、鉄道、バス、自転車に5%ずつ転換
- 自動車のうち18%が電気自動車に
- 市外(県内外問わず)への自動車による移動の5%が鉄道に転換
- 市外(県内)移動の30%、市外(県外)移動の30%が減少、その分市内移動が増加
- 省エネのためのエコドライブが浸透している(10%のドライバーが実践)
- ガソリン車はほぼすべてハイブリッド車に
- 自動車の2%が水素自動車に
- 農林水産物の遠県への輸送の割合を25%削減
- トラック輸送時のエネルギー消費を10%削減
- 県内および近隣への輸送の5%を鉄道に転換で
- 小型トラックの約6%が水素自動車に

その他分野の詳しい将来像は
第2期報告書を参照

将来像を基にした事業の検討



左) 市民自らが将来像を実現するための事業・取組を検討するために調査を実施。高島の文化としての祭りを継承するための方法を検討するためのヒアリング調査。

右) 市民が子育てと地域参加の関係性を明らかにするアンケート調査を実施。項目から集計、分析まで研究者の支援を受けながらも自ら実施。



〈アンケート調査の概要〉

アンケート実施期間

平成30年11月15日から平成30年11月30日まで

アンケート回収状況

配布世帯数：743世帯
回収枚数：550枚
回収率：74%

アンケート結果

- 家族構成
三世代同居 9.1%
- 親の市内居住有無
市内居住 85%
- 自治会加入状況
550人中460人が自治会に加入している。
- 活動回数
平均活動回数は5、6回/年である。

参考：ワークショップ議事録からストーリーラインの統合による将来像の定性的把握

グループワーク抽出ストーリーライン

仕事の組み合わせは、本業と副業で完全ハーフで、いろいろ掛け持ちなどができて、多様な働き方ができると良い。

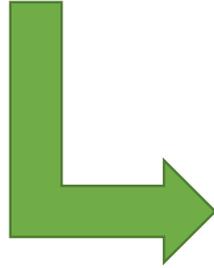
夏は市内で過ごし、冬は都会で仕事する、二地域居住の働き方が広がっていると良い。

週日は都会で市営（民間）のサテライトマンションで過ごして仕事をし、休日に市内に帰ってくる働き方がしたい。

毎日短時間労働などで仕事をかけもちするなどが必要。

週単位で労働時間を管理して仕事をしたり、週休3日で仕事をし、他の日は長時間労働の場合もあるような、働き方をする。

261ストーリーラインを抽出



テキストマイニング手法を用いてストーリーラインの統合・構造化。



数理モデル（環境経済社会統合評価モデル）によって、将来の経済、環境の状態を定量的に裏付け。

高島市将来社会ストーリーラインの共起ネットワークによる構造化

